

情報基盤を使ったネットワーク放送に関する考察

—メディアリテラシーの視点から—

柏 木 将 宏

1. はじめに

本稿では、本学の情報基盤を活用する実践内容として、ネットワークを利用した放送に焦点を当て、その活動母体であるネットワーク放送プロジェクトについて、現状に至るまでの内容を報告する。また映像制作をテーマとする政策情報学部の講義科目「インターネット放送実習」について、メディア・リテラシー教育の面からその効果などを考察する。

2. ネットワーク放送プロジェクトの活動概要

本学で盛んなインターネット中継やスタジオなどに関わる活動は、「ICC ネットワーク放送プロジェクト」⁽¹⁾によって行われているが、これは、学校法人千葉学園情報基盤会議のプロジェクトとして、学生・教職員をメンバーとする全学的な取り組みであり、その起源は1996年に、当時の赤坂プリンスホテルで開催された本学主催「国交回復40周年記念日露シンポジウム」⁽²⁾のインターネット生中継にさかのぼる。^[1] その後も、卒業式・入学式や本学創立80周年記念⁽³⁾などの式典、公開講座、ユニバーシティ・アワーといった各種イベントなどの様子をインターネットで生中継し、またその中継映像を後に Web サイトから見られるようにする VOD 配信サービスの提供、あるいは映像記録としてのアーカイブ提供といった活動が、現在でも続けられている。また市川市と本学との包括協定に先んじて2009年に市内の地域 LAN を構築し、本学公開講座の市民への中継映像配信や市長室・教室・付属高校を結んだ双方向の三元遠隔授業^[2]の実現など、学内外にわたる精力的な活動が行われて来た。2012年7月に本学で開催された「大学教育改革地域フォーラム @ 千葉商科大学」における生中継映像は、YouTube の文部科学省動画チャンネルで使用され、一般公開されている。

2006年には1号館の正面入り口に「IT スタジオ」が作られ、放送と通信の融合を見据えた新たなプロジェクト活動の拠点となっている。現在は、学内情報番組「Cube Times (キューブタイムス)」の制作・学内ネットワーク放送・インターネット配信⁽⁴⁾が行われており、学生の視点でCUCの「今」を毎週映像で伝えている。これは、継続は力をモットーに、プロジェクト活動に関する「基礎体力」養成もその目的のひとつになっている。更に、

(1) <http://srg.pi.cuc.ac.jp/hoso/>

(2) <http://www.ef.cuc.ac.jp/EXTENSION/sympo/>

(3) <http://www.cuc.ac.jp/80th/>

(4) <http://www.cuc.ac.jp/tv/>



図1 「CubeTimes」を視聴する学生（左・1号館スタジオ前、右・7号館1階）

学園の広報用マルチメディアコンテンツ制作，インフォメーションディスプレイを用いた学内告知情報のビジュアル化，オープンキャンパスでの体験授業など多くの内容が加わり，プロジェクトの活動幅は年々広がっている。またスタジオは，これら活動に加え，ゼミナール，外国語，マルチメディア関連科目などでの授業利用や，学長と国際センターによる動画メッセージ⁽⁵⁾，教員の研究成果報告映像⁽⁶⁾，事務局管理の各種記録映像などの制作・編集といった，本学の教育・研究・広報等の活動において広く，かつ盛んに利用されており，高い稼働率が維持されている。昨年夏には，機材設備やネットワーク放送システムをHD（ハイビジョン）対応に更新するなど，先進技術への対応にも努めている。

3. メディア・リテラシー教育としてのネットワーク放送

メディア・リテラシーとは，一般的に次の三つを構成要素とする，複合的な能力のことを指している。⁽⁷⁾

- ・メディアを主体的に読み解く能力。
- ・メディアにアクセスし，活用する能力。
- ・メディアを通じコミュニケーションする能力。特に，情報の読み手との相互作用的（インタラクティブ）コミュニケーション能力。

また「メディアが形作る「現実」を批判的（critical）に読み取るとともに，メディアを使って表現していく能力」とも定義される。^[3] このように，一般的には視聴者の立場・視点で定義されることも多いのだが，北米やヨーロッパではマスメディアへのアクセス権（パブリック・アクセス）が1970年代から法的に整備され，一般市民が作り手となりマスメディアを使った意見や情報の発信が行われて来ている。日本でパブリック・アクセスが

(5) <http://www.cuc.ac.jp/eng/welcome/>

(6) <http://www.cuc.ac.jp/prospective/graduate/accounting/movie/>

(7) http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/top/hoso/kyouzai.htm

進展していない要因は、放送事業に関する法制度とメディア・リテラシー教育への取り組みにある。しかしインターネットのビデオストリーミングサービスが普及し、個人レベルでの動画を使った情報発信が容易になっており、メディア・リテラシーやパブリック・アクセスといった概念の重要性が増して（しまつて）いる現実がある。

大学におけるメディア・リテラシー教育としては、学生が映像制作をし、地方テレビ局やCATV局あるいはインターネットで番組として放送する、といった事例がいくつかある。^[4]これはパブリック・アクセスの実践とも言えるが、本学でもICCネットワーク放送プロジェクトが取り組んでおり、2011年度から、かねてより交流のあった地元のCATV局（株）JCN市川と番組制作などで連携し、番組コーナー「いちかわつと HISTORY」⁽⁸⁾の企画・制作を委託されるようになった。これは、市川市の考古・歴史博物館の所藏品や市内の遺跡・遺構・地理などを、番組の進行役となる学生と共に、学芸員の方の専門的な解説を交えながら紹介する番組で、同局情報番組「デイリー市川」内でレギュラー放送されている。番組の内容構成や取材・連絡などから始まって、完パケと呼ばれる放送用完全映像の納品までを、学生スタッフが自己完結的に取り組んでいるものである。月2本の



図1 番組タイトルロゴと放送画面



図2 番組収録の様子（市川歴史博物館）

(8) <http://srg.pi.cuc.ac.jp/hoso/jcn/iwh/>（学内限定公開ページ）

ペースで制作されるレギュラー放送となっているが、視聴者からも好評を頂けている⁽⁹⁾ようで、番組回数も35を越えることが出来た。

なお来年度からは、学生の企画による新番組の開始が予定されている。また、同局の番組編成において時間調整のために放送されるフィラー映像の制作も依頼され、すでに地域の景勝や本学案内、CGアニメーションなどの内容による7作品を納品し、深夜などに放送されている。これら公共向け放送の番組制作では、実社会においてプロの方々との対等な協働作業を求められる、というシビアな内容となるが、その実践を経ることで、参加学生の社会人としての意識と専門的な知識・技術力の向上、就職への機会拡大などが見られるようになっている。

筆者がかつてメディア・リテラシーに関する内容で行った学会発表における質疑の中で、この事例に相当する、地域のCATV局との協働による番組制作を持ちかけられた大学のケースについての話題がやりとりされたことがあった。この大学では、実際に専用チャンネルを設けて制作した番組のテレビ放送を行ったのだが、大学のスタッフでは対応することが難しいということで、活動実務は映像制作会社に依頼した、とのことだった。こういった実状があることも踏まえれば、本学の活動が学内資源だけで、また基本的には学生スタッフによって完結する形で行われている点は、有為な特徴と言えるのではないか。

4. 番組制作とメディア・リテラシー教育への効果

政策情報学部では、本学のスタジオ開設と時期を合わせ、番組制作を課題とする講義「インターネット放送実習」⁽¹⁰⁾を開講しており、宮崎、大矢野両先生と筆者によるチームティーチングの形をとってメディア論、番組企画、映像制作技術、作品批評、ネットワーク技術など多方面からの指導がなされている。内容はネットワーク放送プロジェクトの講義版とも言えるが、ここで課題として制作する番組については、映像制作における労力の大きさを考慮し、他の講義やゼミナールなどで取り組んでいる制作物とタイアップしたもので良いことにしている。

以降は、この講義において行った履修者に対する調査結果を元に、その学習効果についてメディア・リテラシーも含めた側面から考察したい。

本稿で採り上げた調査の実施概要は以下の通りである。

| | |
|------|------------------------------|
| 調査方法 | 質問紙式調査法 |
| 調査場所 | 講義教室にて20分程度の時間を用いて回答を要請 |
| 調査回数 | 第1回講義（講義開始時）、第15回講義（講義終了時） |
| 調査対象 | 履修者のうち課題の提出（映像番組の完成）まで至った者全員 |

(9) 2012年11月末現在の市川市の世帯数は217300、その中でこの番組を視聴できる世帯数は172591である。JCN市川では、いわゆる視聴率調査のデータは公表していないが、この一年間に番組で行ったプレゼント応募で届く葉書の中で、同局の全番組についての感想を書いて来るのは30通程度であり、その中の3通に「いちかわっと HISTORY を楽しみにしている」、といった旨の反響があったそうで、同局によれば「これは立派な数字です」とのこと。

(10) <http://cuc-websyllabus.yoshida-p.net/lecture/34742.html>

2011年度 6名, 2012年度 16名

また、本稿で扱う調査項目11⁽¹¹⁾は、回答と共に資料の付表1～10に示してあるので適宜参照されたい。なお講義前と講義後で内容の比較ができるよう、回答には個人を識別するための英字が付与してある。

設問 [1] (テレビ番組を見ている時に注目しているポイントは何ですか。) に対する回答では、講義前に目立っていた無回答が講義後には無くなっていた。前後で回答されている内容を比較してみると、設問 [2] (テレビ番組を、出演している側の立場・視点に立って見たことはありますか) および [4] (テレビ番組を制作する側の立場・視点に立って見たことはありますか) の結果が示すように、テレビ番組を視聴している視点・立場に、講義の前後で変化があったことが読み取れる。メディアが形作る「現実」を批判的に読み取るためには、制作者あるいは出演者といった伝える立場になって番組を視聴することが有効であり、それはメディア・リテラシーとして身につけるべき能力と言えらる。なお設問 [3] (テレビ番組の制作に興味がありますか) でも番組制作への興味が高まっている結果は見られた。ただし、元々興味のある学生が履修していると考えれば、講義の前後であまり変化が大きくない点も頷けるだろう。

設問の [5] から [7] では、自分の身近にあるマスメディアについての内容である。「ハイパーローカル」という言葉が話題に⁽¹²⁾なることも多くなっているが、そのメディアとしては、インターネット・WWW だけでなく、テレビや新聞といったマスメディアも対象となっているのだろうか。学生が始めて番組制作を経験すると、そこでかかる手間が想像以上であったことに驚くのが通例である。普段目にしていたキー局で放送されているテレビ番組の品質レベルで作るとなればとても手に負えないことを実感し、また番組を企画する上では舞台として地元地域を意識せざるを得なくなる。それが、地元メディアへ目を向ける動機になっているかどうかについては、今回の調査結果からはあまり顕著な傾向は見られないようであった。ただし、地元に着目したマスメディア (テレビ局) の必要性については、講義の前後を問わず一貫して肯定的である。

設問 [8] (一般市民が、放送メディアを利用して情報発信を行う仕組みや制度が、社会的に充実していくことについてどう思いますか) では、パブリック・リテラシーそのものを問うているが、講義前の回答ではあまり見られなかったメディア・リテラシーに関わるキーワード (付表8に網がけをしてある) が、講義後の回答には顕著に表れているのが分かる。また講義前にはあった無回答者が講義後にはなくなっているのも、メディア・リテラシーに対する教育効果の現れと言えらる。

設問 [9] は、ネットワーク放送プロジェクトの取り組みに対する評価であるが、自身で番組制作をすることで身についた力を実感できている場合には、その活動経験を踏まえた支持が見られる。また番組作品の発表の場として、放送メディアが学内にあることも肯定的に捉えているようだ。

設問 [10] は、講義を通じて得られた知識・技術や改めた意識・考え方・興味といった

(11) 調査用紙に書いた設問の一部である。

(12) (例) 2012年7月11日 産経新聞一面「投資家バフェット氏、米地方紙63紙買収」

点を、講義の終了時に聞いたものだ。特に設問 [10] - 2 (個人レベルからの社会に向けた情報発信について) の回答内容は、設問 [8] と合わせて見るべきだが、やはりメディア・リテラシーに関わるキーワード (付表10に網がけをしてある) が顕著に表れているのが分かる。

なお本稿では、調査結果として過去2年分についてその一部を採り上げ考察してみたが、この調査は講義が設置された2009年度より継続的に実施しており、それら結果についても、今後更に分析をして行きたい。

5. おわりに

これまで示したように、番組制作実習にはメディア・リテラシー教育への有効性が見られた。また実習の制作過程で必須となる映像編集は、知的な作業の練習教材となり、直観的で面白いアウトプットが得られるため、学習者が取り組みに興味を持って行うために効果的である。映像制作は、小規模なものであればビデオカメラ1台とPCがあれば良いので個人的に取り組むことが出来るし、本格的に取り組めば多数のスタッフを組織し、また実社会においての協働という実学の実践にもなる。



図3 「CubeTimes」収録中のスナップ
(スタジオでは多くの学生スタッフと出演者が活動している)

そして作られた番組作品は、本学情報基盤上でのIP放送やVOD配信あるいはインターネットのストリーミングサービスを用いれば、学内限定で、あるいは広く世界に対して公開できる。放送をテーマとした諸活動は、情報リテラシーの応用として社会科学系学部のICT教育に有効な内容となり得るだろう。またネットワークを使った放送に関わる活動は、これを支える基礎ともなっている。

【参考文献】

- [1] 瀧上・宮崎編（2010年）「大学維新への挑戦—千葉商科大学政策情報学部10年目の報告」中央公論新社
- [2] 柏木将宏・大矢野潤（2009年）「情報リテラシー応用としてのインターネット TV 放送」『教育システム情報学会研究報告』Vol.23 No.6, 教育システム情報学会
- [3] 菅谷明子（2000年）「メディア・リテラシー 世界の現場から」岩波新書
- [4] Wikipedia 日本語版「メディア・リテラシー」（2013年1月10日閲覧）

資料

※ [] 数字は本稿用の設問番号

※調査は講義の開始時（第1回）と終了時（最終第15回）の2回行った

※回答者は2011年度および2012年度の政策情報学部「インターネット放送実習」履修者のうち最終課題提出に至った学生全員（2011年度6名，2012年度16名）

※2011年度学生は英小文字 a-f で，2012年度学生は英大文字 A-P で，それぞれ個人を識別している

※調査用紙の自由回答にあった個人が特定できる情報や明らかな誤字脱字等は筆者が修正した

付表1

[1] テレビ番組を見ている時に注目しているポイントは何ですか。（自由回答）

2011年度

| |
|--|
| ・開始時 a （無回答） b 音楽，カメラワーク c おもしろさ d キャスターの撮られ方，BGM や字幕の効果 e （無回答） f （無回答） |
| ・終了時 a テロップや話の内容が分かり易いかどうか，効果音の入れ方や音（BGM）の入り方など。 b BGM，SE，ギャ，笑い声 c カメラワーク，テロップ d カメラアングル，テロップ，インサートの撮り方，BGM，SE，構成 e おもしろさ f 情報量，情報の信憑性 |

2012年度

| |
|--|
| ・開始時 A （無回答） B （無回答） C 演技力，カメラワーク D （無回答） E バリエーションの新しいものが生まれているか。 F おもしろさ G おもしろいか，おもしろくないか。どんな内容で何の情報を伝えているのか。 H 映像制作を始めてからは，テロップや構図などを気にするようになっている。 I カメラワーク，編集の仕方やポイント，企画が面白いのか，テロップの色など。 |
|--|

- J (無回答)
- K (無回答)
- L (無回答)
- M (無回答)
- N バラエティー, 音楽
- O (無回答)
- P (無回答)

・終了時

- A カットのつながり, ナレーションの声
- B この授業を受けたことで, 映像の取り方, カットなどを見るようになった。
- C 演技力, シーンの切り替え, 展開
- D 興味がわくか, 出演者
- E テロップやおもしろいコメントが聞きやすく見やすくなっているか。シュールな番組が好きなので, シュールさを注目している。
- F おもしろさ
- G おもしろいかどうか
- H 制作を行ったことで, テロップやカットに気を付けるようになった。
- I 編集の仕方, カメラワーク, テロップのデザイン
- J 番組で映像が流れるときに, その映像が何をメインに撮られているか, というのは一つ注目して見ている。
- K 番組のジャンル, テーマ。番組構成が見やすいか, 分かりやすいか。出演者。
- L おもしろくない芸人のコメント。
- M 日常生活に役に立つ情報が放送されていて, おもしろいかどうか。
- N 自分がおもしろいと思うことに注目している。
- O カメラワーク, 編集点, メッセージ (本当に伝えたいこと)
- P 出演者のコメントや表情を注目することが多い。番組の企画意図などを考えるようになった。

付表2

[2] テレビ番組を, 出演している側の立場・視点に立って見たことはありますか。

| 2011年度 | 開始時 | 終了時 |
|--------|---------|-----------|
| ある | 3 (cdf) | 5 (abcdf) |
| ない | 3 (abe) | 1 (e) |

| 2012年度 | 開始時 | 終了時 |
|--------|--------------|-------------------|
| ある | 8 (ACHILNOP) | 12 (ACEFGHIJMNOP) |
| ない | 8 (BDEFGJKM) | 4 (BDKL) |

付表3

[3] テレビ番組の制作に興味がありますか。

| 2011年度 | 開始時 | 終了時 |
|--------|---------|----------|
| たいへんある | 3 (bdf) | 2 (ad) |
| 少しある | 3 (ace) | 4 (bcef) |
| あまりない | 0 | 0 |
| まったくない | 0 | 0 |

| 2012年度 | 開始時 | 終了時 |
|--------|--------------|-----------------|
| たいへんある | 4 (HINO) | 6 (CEFHN) |
| 少しある | 8 (ACGJKLMP) | 10 (ABDGJKLMOP) |
| あまりない | 4 (BDEF) | 0 |
| まったくない | 0 | 0 |

付表4

[4] テレビ番組を制作する側（テレビ局員，制作プロダクションスタッフ，企画制作者・プロデューサー，演出家・ディレクター，…）の立場・視点に立って見たことはありますか。

| 2011年度 | 開始時 | 終了時 |
|--------|----------|-----------|
| ある | 4 (acdf) | 5 (abcdf) |
| ない | 2 (be) | 1 (e) |

| 2012年度 | 開始時 | 終了時 |
|--------|-----------------|-----------------------|
| ある | 10 (ACEGIKLNOP) | 15 (ABCDEFGHIJKLMNPO) |
| ない | 6 (BDFHJM) | 1 (J) |

付表5

[5] 独立UHF局（ちばテレビ，MXテレビ，tvk，…など）やケーブルテレビなどで放送されている，いわゆる「ローカル番組」は見ていますか。

| 2011年度 | 開始時 | 終了時 |
|--------|---------|---------|
| よく見る | 0 | 1 (c) |
| たまに見る | 3 (cef) | 3 (def) |
| あまり見ない | 2 (ad) | 1 (a) |

| | | |
|-------|-------|-------|
| 見ない | 1 (b) | 1 (b) |
| (無回答) | 0 | 0 |

| 2012年度 | 開始時 | 終了時 |
|--------|-----------|-------------|
| よく見る | 2 (JN) | 1 (N) |
| たまに見る | 4 (CIKL) | 7 (ADIJKLO) |
| あまり見ない | 5 (ADHOP) | 3 (EHP) |
| 見ない | 4 (EFGM) | 5 (BCFGM) |
| (無回答) | 1 (B) | 0 |

付表6

[6] テレビキー局（NHK, NTV, TBS, …など）によるものも含め、自分が生活している地域のニュースや紹介されている番組に対する興味はどの程度ありますか。

| 2011年度 | 開始時 | 終了時 |
|--------|----------|---------|
| かなりある | 2 (ce) | 3 (cdf) |
| 少しある | 4 (abdf) | 3 (abe) |
| あまりない | 0 | 0 |
| まったくない | 0 | 0 |
| (無回答) | 0 | 0 |

| 2012年度 | 開始時 | 終了時 |
|--------|-----------------|---------------|
| かなりある | 1 (H) | 4 (ELMN) |
| 少しある | 10 (CEIJKLMNOP) | 9 (ADGHIJKOP) |
| あまりない | 3 (ADG) | 2 (BF) |
| まったくない | 1 (F) | 1 (C) |
| (無回答) | 1 (B) | 0 |

付表7

[7] 自分の地元に着したテレビ局は必要だと思いますか。またその理由を教えてください。(自由回答)

2011年度

開始時

| |
|---|
| <p>・はい 5</p> <p>a 自家の店舗が千葉テレビで放送されて、お客が来てくれたので、地元テレビ局は、地元を盛り上げるために必要だと思う</p> <p>c 実家とは離れた所から大学に通っているが、今住んでいる地域の行事などを全く知らないから</p> <p>d 地元について知ることができるから</p> <p>e 住んでいる所の分からないことなどが放送されていたりすると見てしまうから</p> <p>f もっと地元を宣伝する必要があると思うから</p> |
| <p>・いいえ 1</p> <p>b あまり地元に興味がないから</p> |

終了時

| |
|--|
| <p>・はい 6</p> <p>a 住んでいる街について意外に知らないことや、興味深い情報があった方が、視聴者にとって良いと思うから。地元のコミュニケーションが広がる話題が良いと思う。</p> <p>b 地方の場合番組が少ないこともあり、広報の役割としても必要だと感じるが、都心では余り必要を感じない。</p> <p>c 地元でどのようなことが起きているのか分からない人もいます。</p> <p>d 場所や人や内容など身近な物事を、テレビを通して見ることで、</p> <p>e 自分の住んでいる所に少しでも興味があるから</p> <p>f 地元にも名物や名所があるので、それらを紹介する番組があってもいいと思うから。</p> |
| <p>・いいえ 0</p> |

2012年度

開始時

| |
|---|
| <p>・はい 12</p> <p>A 地元ずっと住んでいたのに自分自身が地元を知らない、ということが多々ある。密着したテレビ局を作り、学校などで流せば認識がもっと生まれると思うから。</p> <p>B 地元のやっている知らないことや知らない場所などの紹介がとてもおもしろいし、理解することはいいと思うから。</p> <p>D (無回答)</p> <p>E 地域ならではの情報も必要だと思うから。</p> <p>F 地元のことをあまりよく知らないから。</p> <p>H 地域の人々に役立つから。</p> |
|---|

- I 地元のお店紹介など見ると、実際に行ってみようと思うし、地元のニュースが分かるから。震災が起きたときに、地元で営業を中止している施設などを教えてくれてありがたかったから。計画停電の情報がとても良くわかったから。
- J ある程度自分の知っていることを、もっと細かく知ることができるから。
- K 地域振興
- N 地域活性化のため。
- O (無回答)
- P 地域活性化のためには必要だから。

- ・いいえ 4
- C なにもない
- G 地元があまり観光地などではないので、密着できるような魅力を感じないから。
- L うるさくなる
- M (無回答)

終了時

- ・はい 14
- A 実際に知らないことも多いと思うので、私たちの年代や小さい子向けに作ってもらいたい。
- B 自分自身が地元のことを理解できていないので、必要だと思う。
- D 地元も好きになってもらうため、地元に戻ってきてもらうため
- E 一日や一時間でも、世界でも地元でも変化はあると思うので、それを伝えるのは、深部でもテレビでもやるべきだと思うから。
- F 細かく情報を知ることができるから。
- G 地元の情報が分かるから。
- H 地元や地域の方に、イベントのお知らせなど有益な情報を得ることができる。
- I 自分の地域のイベント情報やお店の情報を見ると、行ってみようかな、と思う。家の近くのことを放送してすぐに行けるのでとても良い。あと災害の情報が便利である。
- J 地域ごとに色々なニーズがあると思う。その地域ならではのニュースを伝えるテレビ局は必要だと思う。なので地元で密着したテレビ局は必要だと思う。
- K その地域によって求める情報は異なる。全国放送では、埋もれてしまうローカルな情報を出すために必要。
- M キー局が放送しないような地元の情報を放送できると思う。
- N 地元のつながりが広がるから。
- O 地元ネタというのは、なんだかんだ言っても皆好きで興味があると思う。
- P 全国的には知られなくて良い情報でも、地元の人では知っておきたいことはあると思う。レジャースポットなども含めて

- ・いいえ 2
- C 紹介するものがない。
- L 有名になったらうるさくなる。

付表8

〔8〕一般市民が、放送メディア（インターネット・WWWは除く）を利用して情報発信を行う仕組みや制度が、社会的に充実していくことについてどう思いますか。またその理由を教えてください。（自由回答）

2011年度

開始時

| |
|---|
| ・重要だ 0 |
| ・割と重要だ 4 a 天災の時などに役立つのではないかと思うから c 一人一人の意見が社会に発信されるのは、新発見などにつながる可能性がある所以大切だと思うから。ただし発信する人は、しっかりとした情報ソースと責任を持たなければならないと思う。 d (無回答) f (無回答) |
| ・あまり重要でない 0 |
| ・重要でない 0 |
| ・(無回答) 2 b e |

終了時

| |
|---|
| ・重要だ 0 |
| ・割と重要だ 4 a 重要ではあるが、対象となる人をしっかりと選び正しい情報を発信しないと、間違った情報を視聴者が認識してしまうから c (無回答) d 視聴者のリアルな声を聞くことが出来るので良いと思う。 f (無回答) |
| ・あまり重要でない 1 b 一般市民ということで乱雑なコンテンツが蔓延しそうな感じがした。 |
| ・重要でない 0 |
| ・(無回答) 1 e |

2012年度

開始時

| |
|---|
| <p>・重要だ 4</p> <p>D (無回答)</p> <p>H 社会に一般の人の意見が反映されるから。</p> <p>K 個人々が、興味のあること重要だと感じていることなど発信することで、自己表現できるから。</p> <p>N 地域活性化のため</p> |
| <p>・割と重要だ 9</p> <p>A 一般市民がただの視聴者にならなくなるから。</p> <p>B 一般市民がやることよって、いろいろな情報が出るから良いと思うので。</p> <p>C (無回答)</p> <p>E 発信する人はもっと幅広くてよいと思うから。</p> <p>G (無回答)</p> <p>I (無回答)</p> <p>J いろいろな情報を素早く知ることができるから。</p> <p>O (無回答)</p> <p>P (無回答)</p> |
| <p>・あまり重要ではない 2</p> <p>F 面白いと思うが、情報の信頼性がなくなっていってしまうと思うから。</p> <p>M (無回答)</p> |
| <p>・重要でない 0</p> |
| <p>・(無回答) 1</p> <p>L</p> |

終了時

| |
|---|
| <p>・重要だ 12</p> <p>A 若者向けに地域の紹介などを行ったら、毎日通る道でも変わって行ける。</p> <p>B みんなで共有できるから。</p> <p>C 実際に存在しているがとても将来性があると思う。</p> <p>D 市民の声、市民の活動で国を動かす、国を変えていくためにも必要だから。</p> <p>E 個人でも、思っていることを映像に載せて流せるのは、とても良いことだと思うから。</p> <p>F 才能発見に貢献するから。</p> <p>G いいと思う。</p> <p>H 社会問題に関して、一般市民から意見を述べることのできる媒体として必要だと思うから。しかし、法律などへの一定の理解が必要だと思った。</p> <p>I テレビ局からだけの情報だと、偏った見方になってしまうので。一般の方の自己表現、情報を発信する場として。</p> |
|---|

| | |
|---|---|
| J | 色々な人がすぐメディアを利用できるようになるのは、色々なところで情報交換が素早くできるようになる、ということなので、とても重要だと思うから。 |
| L | いち早く情報が知りたい。 |
| N | その人の可能性を広げるから。 |
| | ・割と重要だ 3 |
| K | 一般市民が情報発信できるようになることで、あらゆる主張や情報が出てくる仕組みができるのは良いが、その分その情報の取捨選択を制度化しなければ情報が氾濫してしまうことにもなりかねないので、それ次第だと思うから。 |
| M | 一般市民が情報発信をしてしまうと、誤った情報が発信される場合がある。 |
| O | NHK や民放は結局最終的に国の言いなりで真実が伝えられないこともあると思う。 |
| | ・あまり重要ではない 1 |
| P | 著作権、肖像権の問題を無視したものが出回る可能性が高くなるから。 |
| | ・重要でない 0 |
| | ・(無回答) 0 |

付表9

[9] 学内テレビ番組定期放送の取り組みをどう思いますか、またその理由を教えてください。(自由回答)

2011年度

開始前

| | |
|---|---------------------------------------|
| | ・支持する 5 |
| a | 技術の向上につながる |
| b | (無回答) |
| c | 自分自身が作った作品の良いところ悪いところを見つけやすく今後に活かしやすい |
| d | (無回答) |
| e | 自分たちのためになる |
| | ・ある程度指示する 0 |
| | ・あまり支持しない 0 |
| | ・やめた方が良い 0 |
| | ・(無回答) 1 |
| f | |

開始後

| | |
|---|--|
| | ・支持する 5 |
| a | テレビ制作について興味がある人にとっては、必要な技術が身につくから。 |
| b | テレビ業界に行きたい人、興味のある人にとっては意味のあるものだと思う。また、知人も増え、充実した生活を送れると思われる。 |

| |
|-------------------------------|
| d 人生においてこんな貴重な経験はまずできないと思うので。 |
| e 学生にはあまり経験できないことができるから |
| f (無回答) |
| ・ある程度支持する 1 |
| c 学生の作品を放送してくれる枠があるのはいいことである |
| ・あまり支持しない 0 |
| ・やめた方が良い 0 |
| ・(無回答) 0 |

2012年度

開始前

| |
|--|
| ・支持する 6 |
| E とても良いと思う。他の学生がどのような活動をしているのか見られる。 |
| F 情報を発信してくれてありがたいから。 |
| G 自分でも作ったりしているから。 |
| H ゼミの活動で参加したこともあり、学生主体の放送ツールが設けられていることは、経験を通じて多くのことを学べるから。 |
| I 自分がやっているの。学内で起きたことを、学生に知ってもらうのは大事だと思う。 |
| N 学生の学びになるから。 |
| ・ある程度支持する 7 |
| B 学生が考えてやっているのは良いと思う。 |
| C (無回答) |
| J 身近なところからニュースに触れられて良いと思うから。 |
| K (無回答) |
| L 商大で何が起きているか分かるから。 |
| M 学内の出来事を知ることができるから。 |
| O (無回答) |
| ・あまり支持しない 1 |
| A ただ流れているという感じだったので。 |
| ・やめた方が良い 0 |
| ・(無回答) 2 |
| D |
| P |

終了時

| |
|---|
| <p>・支持する 13</p> <p>C この挑戦で、今後のテレビ業界、放送業界が変化していくのであれば、それはとても良いことだと思うから。</p> <p>D その放送が、様々な人の目に留まり、そこから何かに発展していく可能性もあるため、続けていくことが大切だと思うから。</p> <p>E 料理番組などくだらない映像もあって楽しかったと思う。</p> <p>F おもしろい。</p> <p>G (無回答)</p> <p>H 学生が学生のためになる番組を制作する活動は、作り手受け手のどちらにも影響を与えられるものだと思うから。</p> <p>I 作っている学生の勉強にもなるし、見ているほうも学校であった行事の様子が分かり、良いと思う。</p> <p>K 学生、特に商大生向けの内容で作っているから。</p> <p>L 番組系統に進む人たちには良い経験だと思う。</p> <p>M 学生が主体で取組を行っているので、身近に感じられる。</p> <p>N CUCの学生のメディアに対する興味、関心が生まれるから。</p> <p>O この大学の強みの一つであると思うから。</p> <p>P 学生が学生向けに制作を行っているため、学生のためにもなるし、権利の問題の配慮もできるようになるので良いと思う。制作する側を、身をもって勉強することができる。</p> |
| <p>・ある程度支持する 1</p> <p>J 定期的に新しいものが見られるのは、とても良いと思う。</p> |
| <p>・あまり支持しない 1</p> <p>A (無回答)</p> |
| <p>・やめた方がよい 1</p> <p>B 取り組みなどはとても良いことだと思うが、学生が見ていない所が意味なく感じるから。</p> |
| <p>・(無回答) 0</p> |

付表10

[10] あなたが「インターネット放送実習」の授業を通じて、新たに得られた知識や技術、および新しくまたは改めた意識や考え方、興味などについて、以下の各項目に関し教えて下さい。(自由回答) ※終了時のみの設問

[10] - 1 「テレビ番組の制作について」

・2011年度

- a テロップの入れ方やBGMの入り、音の大きさについて、制作を通じて学びました。
- b 短い時間で大量の映像を撮る方法
- c 台本とロケハンはとても大切
- d カメラアングル、アイリス、BGM、テロップ、構成の作り方
- e 難しいと思う
- f (無回答)

・2012年度

- A 1カットでも明るさがずれていたりしたら、おかしく見えてしまうし、ナレーションのボリュームが合っていないこともあったので、たった5秒足らずのカットでも大切なのだと学んだ。
- B 全くやったことがなかったので、とても新鮮で楽しく感じた。映像の撮り方、照明など、とても細かくて奥が深いと感じた。
- C 今まででは演者としてでしか番組に関わったことがないので、制作からの視点がとても面白かった。
- D ナレーションや映像を撮ること、編集作業のやり方が分かったし、難しさ、予想以上に時間がかかることも分かった。
- E カメラワークがとても勉強になった。外でのロケがどれだけ大変か思い知った。
- F 面白くやりがいがあった。
- G 今回キャラクターを番組にするのは初めてだったので楽しかったし、編集していて、今までは飽きてきたりしたけれど、今回は最後まで楽しく作れた。
- H 企画の重要性。何を伝えたいのか問題提起をし、それをどのような角度から伝えるのかをしっかりと練る必要性を感じた。特に番組の基となる、疑問や関心から生まれる企画の設定が必要あと感じた。
- I 今までと違って今回初めてアニメを作って、編集の仕方の違いなどが勉強になった。こういった番組を作っていこうかなと思う。
- J 何をメインに番組を作るか、ということ、メインをどう表現するのが分かった気がする。
- K 企画の段階と、実際に撮影して素材をそろえた段階で、すでにかなり違っていて、企画からもう少し作りこんでおかないといけない、と思った。
- L 見る側から見せる側が変わり、相手にどう伝えていくのかを考えて制作したので、今度からテレビの見方が変わった感じがした。
- M 初めて番組制作に携わることができた。チームで制作を進めていくので、個人の作業が進まないと完成に近づかないと感じた。
- N 動画の編集に対して、積極的になれたし、そういった技術が身についた。何を伝えたいのか、どのような趣旨で作っていくかを考え制作できたと思う。
- O もともと興味があったジャンルだが、いつの間にかあきらめていて、今回制作ができたのは楽しかった。
- P 今まで撮ってきた中で、カメラワークに変化があったと思う。インサートの大事さを改めて実感した。

[10] - 2 「個人レベルからの社会に向けた情報発信について」

・2011年度

- a 分かりやすい、伝わりやすい情報を個人が作るのは大変なので、視聴者が間違っ**て受け止めてしまうのではない**か、と考えている。
- b 内輪のみの盛り上がる内容になりがちなので、客観的に見る**ことが重要**
- c 一人一人が責任を持つ必要を強く感じた
- d **情報の正確性が求められる**
- e (無回答)
- f (無回答)

・2012年度

- A 一視聴者としての個人的な社会への意見を発信できているので、とても良いと思う。
- B 自分の意見を発信できるのは良いが、いろいろな**問題点も出てくる**と思う。
- C 大差があることは分かっているが、でもオリジナリティーがあ**っておもしろい**。
- D 個人が社会に情報を発信したい時、**やり易いのはネットワークを利用した放送**、発信だ**と思う**。ネットワークを利用した放送、情報技術を高めていくことが大切だ**と思った**。
- E 良いと思う。ただニコ生など、ルールが甘い**と思う**。**きちんとしたルール、法律ができれば、発信することは良い**と思う。
- F あまりよく思わない。
- G (無回答)
- H 誰からでも世界に意見や意志が伝えられることができるので、今後個人の意見が尊重されるのではない**だろうか**と思う。
- I 自分が発信したいことを世界に向けて発信できる場がある。それについては、自己表現としてとても大切なこと**だと思う**。一方**作り方によっては嘘になったり、実物以上に良くも悪くも見せられるので、見る方も注意しなければいけない**と思う。
- J まだ個人での情報発信は**問題がある**な**と思った**。
- K コンピューターやインターネットの発達で、一般人もごく簡単に情報発信ができるようになった。この環境をより有用に使うためにも、**それに関わる勉強が必要だ**と感じる。
- L (無回答)
- M 個人からは、自分の好きなように情報が発信され、意見が自由に伝えられる。
- N 個人レベルからの社会に向けた情報発信については、その一人の**できること、その人の情報を多くの人に伝えることができ、協力者を増やすことができるので、その個人の可能性を広げることができる**と思う。
- O (無回答)
- P 著作権や肖像権の**権利の問題について**、どこまで大丈夫でどこからの侵害なのか、国によって差はあるのか、など**興味がわいた**。

〔抄 録〕

本稿では、本学の情報基盤を活用する実践内容として、ネットワークを利用した放送に焦点を当て、その活動母体であるネットワーク放送プロジェクトについて、現状に至るまでの内容と、それがメディア・リテラシー教育の実践例であることなどを報告・解説した。また映像制作をテーマとする政策情報学部の講義科目「インターネット放送実習」の履修者に対し受講の前後で行ったアンケート調査結果を元にして、メディア・リテラシー教育の面から効果などを考察し、その有効性を確認できた。映像編集作業などを含めた放送をテーマとする諸活動は、情報リテラシーの応用として社会科学系学部の ICT 教育に有効な内容となり得るであろう。またそれを支える基礎として、ネットワークを使った放送に関わる活動がある。